

「思う」について考える ～日中思考動詞の訳し分けについて～

How to translate ‘Omou’ into Chinese Words

桃井 恵一

要旨

本論は思考動詞「思う」を用いる日本語文が中国語ではどのように対応しているのか、『羅生門』『侏儒の言葉』『蟹工船』『風土』とその中国語訳を題材に見たものである。「思う」及び「考える」はそれぞれ中国語でも思考を表す動詞に翻訳される場合が多いが、必ずしもそうならない場合がある。日本語の「思う」ひとつとってみても、和英辞典では13の用法があるという(桜井(2009))。手元にある中型の日中辞典で「思う」を調べてみると、(日漢)(巻末参照)では8項目13通りに、(日中)(巻末参照)では5項目14通りに訳し分けられていた。本稿では、「思う」が中国語ではどのような文脈でどのように対応しているのかを見る。

キーワード: 思考動詞、知覚動詞、思う、考える

Keywords: 思考动词, 知觉动词, ‘omou’ ‘kangaeru’

1. はじめに

本稿では、日本語の思考動詞である「思う」に焦点を当て、これらの動詞がどのように中国語に翻訳されているのか検討してみるものである。日本語の文末表現「～思う」「～思います」は多様な意味合いを有している。例えば、桜井(2009)では『『思う』や『思います』は、情緒に絡んだ多様なニュアンスを含めた表現を可能とする。希望、推測、思いこみ、意見、意志ほか、その使い方によって話者の多種多様な感情を込めることができる」と述べている。同じく桜井によると、和英辞典で「思う」の項目の用例を調べたところ、13の用法が、「時機」や「場」に応じて使われているとしている。それらの用例は、1. 「考える」という表現、2. 懸念に関わる表現、3. 見なす、4. 信じる、5. 予期、6. 回想、7. 感じる、8. 希望、9. 誤認、10. つもり、11. 怪しむ、12. 想像、13. 念願 などである。

本稿では、以上のように多岐にわたって使われている「思う」「思います」等を中心に如何に中国

語に翻訳されているかを見ていくことで、日本語母語話者が中国語を学ぶ際に、また中国語母語話者が日本語の学習をする際に参考になることを目指す。

2. 先行研究について

2.1 「思う（オモウ）」と「考える（カンガエル）」の意味(1979)他

「思う」「考える」は英語に訳すと ‘think’ となり、また、‘think’ を和英辞典でひもとけば、やはり「考える」「思う」「思っている」などという項目がある。ここでは、「思う」「考える」について見てみたい。

この2.1では、柴田・國廣他(1979)の事例を引きながら、「思う（オモウ）」と「考える（考える）」について見ていく。柴田・國廣他(1979)によると、「思う」「考える」はともに「＜人間＞の＜精神的活動＞を表す動詞」としている。その中で、同様に＜人間＞の＜精神的活動＞を表す「知る」と比較し、「現在の状態」を表す場合、「知る」は「テイル形」を用いるが、「思う」「考える」は「辞書形」で表せるとしている。以下(1)～(6)の例は柴田・國廣他(1979)による。(※は非文を示す)

- (1)a 僕はこれは間違いだとオモウ。
- (1)b 僕はこれは間違いだとカンガエル。
- (2)a ※僕はそのことをシル。
- (2)b 僕はそのことをシッテいる。

また、人称制限については、次の例文を示している。

- (3)a※ 彼は彼女は来ないとオモウ。
- (3)b※ 彼は彼女は来ないとカンガエル。
- (4)a 彼は彼女は来ないとオモッテいる。
- (4)b 彼は彼女は来ないとカンガエテいる。

以上見たように、オモウ・カンガエル主体が「話し手以外の人」の場合、(3)が示すように、オモウ・カンガエルは基本形では表現することが出来ず、(4)のように「テイル形」で表現しなければならない。その他、オモウ・カンガエルの共通点として、ともに命令形を用いることが出来る点も指摘している。以上から、柴田・國廣他(1979)はオモウ・カンガエルについて、「＜人間＞の＜自制的＞なく精神的活動＞を表わし、その用法上、基本形によって＜話し手の現在の状態＞を表し得る、という点を共通の特徴」としている。しかしながら、異なる点もある。

- (5)a※ 頭（の中）でオモウ。
- (5)b 頭（の中）でカンガエル。
- (6)a 心の中でオモウ。

(6)b ※ 心の中でカンガエル。

以上の例から、カンガエル＝頭、オモウ＝心の働きとしている。そして、オモウとカンガエルについては、以下のようにまとめている。

- (7)オモウ <心の中で><ある対象のイメージ(感覚・情緒)を意識する><直感的・情緒的>
カンガエル<頭の中で><ある対象について知力を働かせる><過程的・論理的>

としている。同様に、(類義語)(巻末参照)によると、「考える」、「思う」についてはそれぞれ以下のように記述している。

- (8)「考える」は精神活動の一つで、何か疑問や解決すべきことなどがあり、その原因・理由・方法などを、いろんな外的内的条件・状況などを頭に描きながら、長い時間をかけて、論理的に分析して探し出すこと。pp.246
- (9)「思う」は、感情・意志を中心とする心の活動の一つで、外からの刺激に反応した「感覚・判断・推量・意志・欲望」、心にわき起こった「感情・願望・思い出」など、瞬間的なイメージを心に浮かべること。pp.246

2.2 中国語知覚・思考動詞の意味記述(1987)

大滝(1987)によると、「日本語の『思う、考える』に相当する『觉得、看、以为、认为、想』をとりあげ、各々の意義素を記述する」ことで、「日本語では意味上考慮されてこなかった、中国語特有の示差的意義特徴が見出せることを期待」したから、と「誤用の原因のいくつかも見出されやすいと考えたから」という視点で考察している。その中で、知覚・思考動詞と他の形式(共起制限など)とのかかわりについて考察しており、参考になる。また、意味記述の中で、それぞれの知覚・思考動詞について、

- (10)想;‘觉得’‘看’‘以为’‘认为’よりは意識的能動的行為を示しつつ判断者が思考作業を行う。
以为;考え違いをしたことがわかった後で、以前こう考えたことがあったと回想する。
觉得;「～と思う」と「～と感じる」に相当する用法がある。
看;判断の根拠に視覚を用いる。「会」を加え可能表現にした場合のみ「考える」の用法になる。
认为;感覚形容詞とは共起できない。真理とみなされるほど客観性が高く、周知のテーマで、
判断者に権威づけを行うもの。合理的な立場で考える努力をはらう。
というように、それぞれの意義素の特徴を書き出している。

2.3 「ト思う」述語文のコミュニケーション機能(2001)

小野(2001)によると、「ト思う」形式の思考タイプは、「共有思考タイプ」と「個有思考タイプ」に分けられ、それぞれの思考内容については、「共有思考タイプ」⇒「話し手・聞き手共に思考可能」、

「個有思考タイプ」⇒「聞き手の領域」・「話し手の希望などの主観」とし、「個有思考タイプ」の場合は二つに分けて考えている。特に3番目の「話し手の希望などの主観」に関しては、「ト思う」を文末につけるかつかないかでの、意味の差異について述べられているが、日本語教育に携わるものにとっては興味深い観点である。

3. 分析

3.1 資料題材について

本稿では、日本の作品と中国語訳とを照らし合わせ、検討していく。具体的には、『羅生門』『侏儒の言葉』『蟹工船』『風土』とそれぞれの翻訳版である。詳細は《用例出典》を参照して頂きたい。

表1 各作品における「思う」「考える」の出現結果数

作品名	分類	用例数	辞書対応	辞書非対応	慣用表現
羅生門	思う	6	3	1	2
	考える	2	2	0	0
侏儒の言葉	思う	3 4	2 5	8	1
	考える	1 7	1 1	2	4
蟹工船	思う	5 0	2 8	1 5	7
	考える	1 7	1 5	2	0
風土	思う	4	1	3	0
	考える	3	2	1	0

表1に掲出したのは、各作品中「思う」（参考までに「考える」についても記した）がどの程度出現したのかを表にしたものである。「辞書対応」とは、辞書に記載されている‘想’‘觉得’‘看’‘以为’‘认为’などの動詞を使用して訳出された例を、「辞書非対応」とは上記以外の動詞、または、一切訳出されていない例を指す。また、「慣用表現」とは「思ったより～」「思わず～」「思いのほか～」 「死ぬ思い」「思いがけない」「考えてみる」などの用例をさす。問題を分析するにあたり、「慣用表現」は除外することとする。以下「思う」の訳し分けのデータを見てみる。

まず、表1で見た「思う」とその辞書対応例の分類について見てみることにする。その結果をまとめたのが次に上げる表2である。以下の表2を見て分かることは、「思う」に対応する中国語の出現には、辞書項目として挙げられている“认为”“觉得”“想”“想着”“以为”が出現率上位を占めている点である。各作品から、特筆すべき例をピックアップし、検討していくことにする。

表2 「思う」の訳し分け分類(出現順)

	羅生門	侏儒の言葉	蟹工船	風土	合計
想	1	1	3		5
觉得	1	2	5		8
认为	1	7	1	1	10
仿佛		1			1
相信		1			1
决心		2			2
以为		4			4
感到		1			1
想必		1			1
想恐怕		1			1
恐怕			1		1
想到		2	2		4
思		1			1
想着			5		5
想道		1			1
想过			1		1
希望			1		1
猜猜看			1		1
看作			1		1

3.2 羅生門

芥川龍之介の小説『羅生門』では、表1の通り、「思う」を使った文が6例あった。「思う」を使った例のうち2例は慣用表現だと言える。すなわち、1例は「思ったより」と比較を、もう1例は「思わず」無意識に、を意味する用例であった。つまり、「思う」を使った例文は実質4例に留まると言える。

- ・「この髪を抜いてな、この髪を抜いてな、鬢にしようと思うたのじゃ。」
- ・“拨这头发，拨这头发，我是想用来做个发髻。”

この用例は“想”を用いることで「意志」を表したものだと言える。次の用例は、“觉得”で「思う」を表しているが、“认为”に比べたらやや軽い意味合いである。

- ・わしは、この女のした事が悪いとは思うていぬ。
- ・我不觉得这女人做的是缺德事。
- ・雨風の患のない、人日にかかる惧のない、一晚楽にねられそうな所があれば、そこでともかくも、夜を明かそうと思ったからである。

- ・ 以便找一处好歹可以过夜的地方，一个没有风雨之患又避人眼目的安然存身之处。

この用例については、直接「思う」に対応する中国語の表現がなされていないものである。

3.3 侏儒の言葉

芥川龍之介の箴言集である。この作品からは、表1の通り、「思う」を使用した文が34例あった。そのうち慣用表現が1例であるため、実質33例ということになる。以下の例にある白発を表す「思われる」については‘仿佛’を充てている。

- ・ いや、明滅する星の光は我我と同じ感情を表わしてゐるようにも思われているのである。
- ・ 那闪烁的星光仿佛在表达与我们同样的感情。
- ・ が、わたしはまだ残念ながら、そう云う詩人の地上樂園に住みたいと思つた覚えはない。
- ・ 遗憾的事，我从未产生过想在诗人笔下的地上乐园安居的念头。
- ・ 彼も亦「死にたいと思ひながら、しかも死ねなかつた」一人である。
- ・ 他也是‘想死而未能死成’的人之一。

「思う」の中でも、希望・願望を表す用法では‘想’を充てることが分かる。次の例では「～と思つたものの…」という使い方である。この例では、「～と思つたが、事実は異なり…だった」という意味に相当するため中国語では‘以为’がこの内容とマッチする。

- ・ 人間性そのものを変えるとすれば、完全なるユウトピアと思つたものの忽ち又不完全に感ぜられてしまう。
- ・ 而若改变人性，原以为完美的乌托邦即黯然失色。

以下の3例は原文では「思わなければならぬ」となっているが、訳文ではいずれも‘认为’が使われている。意志を表す「思う」に「必要・義務」を表す「～なければならない」が加わると語気も強くなるが、この場合、‘以为’や‘想’よりも‘认为’が適当だと判断したのではなからうか。

- ・ これはひとり神に限らず、何ごとにも起こり得るものと思わなければならぬ。
- ・ 这不限于神，而应认为适用于一切。

- ・ と言う変化は文章の上にもやはり起こるものと思わなければならぬ。
- ・ 但我**认为**同样的变化在文章上也必然出现。
- ・ この嘘だけはソヴィエットの治下にも消滅せぬものと思わなければならぬ。
- ・ 必须**认为**，这个谎言即使在苏维埃统治下也不会消失。

感覚（感情の場合も）を表す「～思う」の場合は‘感到～’が使われると言えるのではなかろうか。

- ・ 「ナポレオンでも蚤に食われた時は痒いと思ったのに違いないのだ。」
- ・ ‘拿破仑在被跳蚤叮咬时也必定**感到**发痒！’

3.4 蟹工船

小林多喜二の作品である。この作品は全体に会話体が占め、心理的な描写や独白が多数見られる。ここでは、「思う」を使った文が 50 文 51 例あった。うち 1 例が同一文に「思う」「考える」を併用していた。次に挙げる例では、瞬間的な判断、つまり「百のマグネシウムを眼前でたかれたこと」が、実は事実とは異なった、という意味合いの「思う」であるため、‘以为’が使われたと思われる。

- ・ 彼は百のマグネシウムを瞬間眼の前でたかれたと**思**った。
- ・ 他突然**以为**是几百支镁光灯在眼前燃烧，（同时觉得就在不到五百分之一秒的速度里，自己的身体好像是纸片一般向着远方飞了出去）。

同様に、以下の‘以为’を使った例も、ここでは「赤化」が「事実とは異なる」ことが暗示されており、文学を読み進める上でのキーとなっている。

- ・ 船頭は、これが「赤化」だと思っていた。
- ・ 船头**以为**这就[赤化]了
- ・ それは北海道の労働者達には「工場」だとは想像もつかない「立派な処」に**思**われた。
- ・ 在北海道的劳动者们，**以为**[工厂]者东西，是不可想象的[华丽地方]。
- ・ 「俺アこれが本当だと思うんだが」
- ・ [我**以为**这是应该的事……]

次の例では、文中二カ所に「思う」が使われているが、前者は「思いをめぐらせ」、後者は「事実とは異なる『思う』」という意味であり、それぞれ中国語では訳し分けられていた。

- ・ 皆は前の日の「無茶な仕事」を思い、「あれじゃ、波に浚われたんだ」と思った。
- ・ 大家都想到前一天慌乱工作的情景，以为[他是被波浪扫下海去了。]

次の例では、「思う」に直接あたる訳語が使われていないケースといえる。「人間だとは思っていない」＝「人間と見なしていない」というように、より具体的な表現として訳出されている。

- ・ ところが、浅川はお前達をどだい人間だなんて思っていないよ。
- ・ 可是，浅川并没有把你们当做[人]啊！

次の例は、独白を表している。「けんかか？」というだけの表現であり、訳出されていない。

- ・ けんかだナ、と思った。
- ・ 是在打架罷？

最後の例はやや特殊な部類と言える。「べし」には多くの用法があるが、終止形「べし」を文末に用い、禁止・警告を表す。ここでは「銃殺されるべし」というよりは「銃殺されると思うべし」と「思う」を付加することにより、多少なりと和らげている表現と言える。

- ・ いやしくも監督に対し、少しの反抗を示すときは銃殺されるものと思うべし。
- ・ 如果反抗监督，立即格杀勿论。

3.5 風土

和辻哲郎が書いた哲学書である。「思う」を使った文が4例あった。このうち、中国語に「思う」に相当する語が訳出されていない例が3例あった。それらの例は以下の通りである。以上の3例は、日本語の「思う」の部分はなくともかまわない用例ではないか。つまり、聞き手に対する働きかけが低いものである。小野(2001)でいうところの「個有思考タイプ」にあたるものと思われる。これらの用例が、中国語に訳出されない理由はそのあたりにあるのかもしれない。

- ・ しかしこういう偉大な芸術の性格を考える場合に、我々は二つの視点を忘れてはなるまいと思う。
- ・ 可是，在回味这些杰出艺术时，我们不能忘记两点：
- ・ かかる視点からして我々は、ある意味でヨーロッパの運命を決定しているギリシア文化の特性を理解し得るかと思う。
- ・ 从这一观点来看，我们在某种意义上可以理解决定欧洲命运的这一文化特征。

- ・ここにはただ間接的な知識をもって前述の観察を補うに留めたいと思う。
- ・这里只凭些间接的知识来补充一下前面的观察。

訳出された例は次に掲出したものである。哲学書であるがゆえに“觉得”“以为”は適用されず、「理性的な判断に基づいて判断を下す」「认为」を用いたのではないかと思われる。

- ・我々はギリシアの学問や芸術の特に優れている点が合理的にあるとは思わない。

我们并不认为希腊学术和艺术之优越是源于其合理性，反倒应视作出白表里如一的明朗的表现性上。

4. まとめ

以上 4.では4つの日本語による作品とその中国語訳を見てきた。4作品中、「思う」を使った例が94例あり、そのうち辞書に対応しているものが57例あった。この割合が多いか少ないかは、現時点では結論づけられないが、どの作品も半数以上がきちんと翻訳されていたと言えそうである。また、訳出されていない例で、興味深いものが多数あったが、それについては今後検討を加えていく予定である。今後検討をしていかなければならない点については、以下の通りだと言える。

- (1)作品によるばらつきがあるものと思われる。
- (2)訳者による相違、出版されている地域による特性を考慮に入れるべきと思われる。
- (3)「思う」と同時に「考える」の分布、傾向も考慮すべきと思われる。

(1)について、「風土」は小説ではなく「哲学書」である。また、小説であっても「羅生門」と「蟹工船」では文体で大きく異なっている。「侏儒の言葉」は小説家が書いたものではあるが「箴言集」の様相がある。今回これらの本を選んだのは、訳本（中国語訳）が比較的入手しやすかったからである。しかし、文体に統一性が見いだしにくいのが今後の課題となるところであろう。また、同時に(2)についても言えるが、文体の差異や「蟹工船」の訳本は台湾で出版されているものである。大陸と台湾での語彙の差、表現の違いについては今回は扱っていない。(3)については、紙面の関係上今回は扱えなかったが、今後この点について、考えてみたいと思う。

最後に、「思う」をどのように翻訳してきたかを見てみると、おおざっぱではあるが、表3のようになる。以上のことから、日本語で「思う」が出てきた場合、「认为、以为、觉得、想」のみで置き換えるのではなく、状況に応じて、以下のように訳し分けをしていくとよいと思われる。

表3 「思う」の中国語訳に対する提案

表 現	意 味	対応する中国語
～と思う	思う	认为, 以为, 觉得, 想
	考える	认为, 以为, 觉得, 想
	思い巡らせる	想到
～と思える	(一見)そう見える	以为
～を思う	慕う	想, 怀念, 想念
	懐かしむ	想, 回味
～を思わせる	彷彿させる	仿佛
	想像する	想到
～と／に思うのだが	～と思うが実は…	以为
～と思っている	思う	想,
	～と思うが実は…	以为
～かと思うと…	～と思うが実は…	以为
	～するとすぐに…	一 就, 立刻
～に思われる	そう見える (自発)	仿佛
	一見するとそう見える	以为
(感覚)と思った	そう感じる	感到, 觉得
～たいと思う	願望表現	想, 希望
～と思うべし	命令表現	ex. 格杀勿论

5. 最後に

今回は思考動詞「思う」について見てみたが、「考える」については扱うことが出来なかった。次回「考える」について考察するつもりである。また、「思う」を使用している用例で、中国語に直接的に「訳出されていない」例も多くあった。この点も今後検討していくつもりである。

《参考文献》

- (1) 金田一春彦 (1950) 「国語動詞の一分類」『日本語動詞のアスペクト』 pp. 5-26、(むぎ書房 1976) に再録
- (2) 金田一春彦 (1954) 「日本語動詞のテンスとアスペクト」『日本語動詞のアスペクト』 pp. 27-61、(むぎ書房 1976) に再録
- (3) 柴田他 (1979) 「オモウ・カンガエル」『ことばの意味2』 pp. 110-118、(平凡社 2003) に再録
- (4) 大滝幸子 (1987) 「中国語知覚・思考動詞の意味記述」『中国語学』 234 号 pp. 54-64 日本中国語学会
- (5) 小野正樹 (2000) 「『ト思う』述語文の情報構造について」『文藝言語研究 言語編』 第 38 号 pp. 57-70
- (6) 小野正樹 (2001) 「『ト思う』述語文のコミュニケーション機能について」『日本語教育』 第 110 号 pp. 22-31
- (7) 桜井邦朋 (2009) 『日本語は本当に「非論理的」か』 祥伝社
- (8) 黄琬婷 (2009) 「中国語のモダリティ機能への一試論-知覚動詞“想”をめぐる-」
『日中言語研究と日本語教育』 第 2 号 pp. 53-62

《用例出典》

- 『風土』 和辻哲郎(1962) (岩波文庫・1979) に再録
《风土》 陈力卫 译 (2006) (中国・商务印书馆)
『羅生門』 芥川龍之介(1915) (青空文庫より)
《罗生门》 林少华 译 (2008) (中国宇航出版社)
『侏儒の言葉』 芥川龍之介(1925) (新潮文庫・1968) に再録
《侏儒警語》 林少华 译 (2008) (中国宇航出版社)
『蟹工船』 小林多喜二(1929) (岩波文庫・1951) に再録
《蟹工船》 管仁健 译 (2008) (台湾・文经文库)

《参考辞書類典》

- (日漢): 『新日漢辞典【コンパクト版】』 大連外国語学院 編集 東方書店(1982)
(日中): 『岩波日中辞典』 倉石・折敷瀬 編 岩波書店(1983)
(新英漢): 『新英漢詞典』『新英漢詞典』 编写組編 上海译文出版社(1985)
(漢英): 『漢英詞典』 北京外国语学院英語系《漢英詞典》编写組編 商务印书馆(1986)
(類義語): 『日本語類似表現のニュアンスの違いを例証する 類義語使い分け辞典』 研究社(1998)